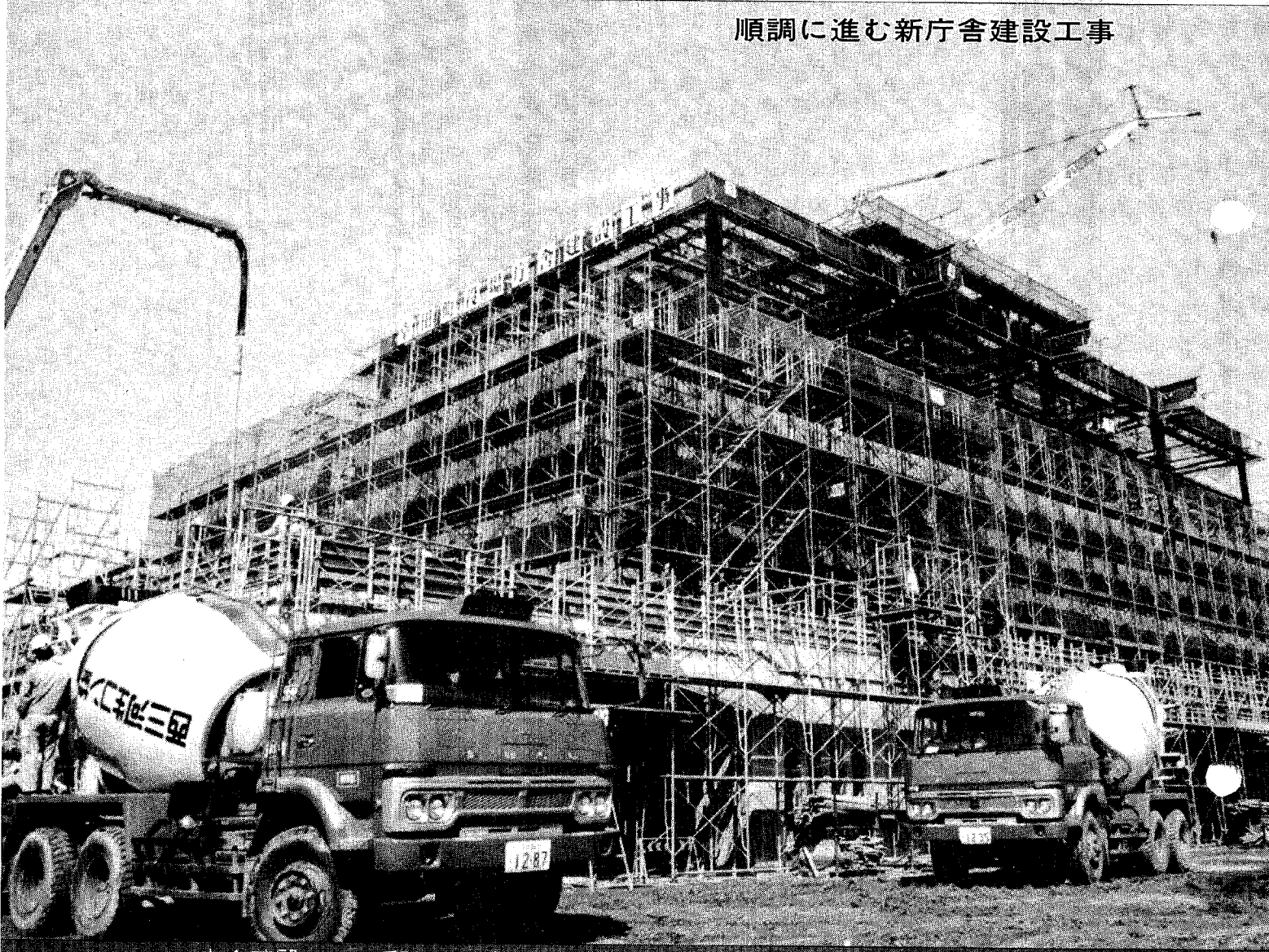


発行・幸田町役場 愛知県額田郡幸田町大字菱池字黒方11番地
 編集・企画課 ☎ 2-1111 (傳) 2458 印刷・あいち印刷

順調に進む新庁舎建設工事



この庁舎建設には、郵便局の簡易保険・郵便年金積立金から融資を受けています。

幸田町民憲章

- わたくしたちは、心ゆたかな住みよ
 いまちづくりをめざし、ここに町民憲
 章を定めます。
- 一、緑豊かに、水清らかに、みんなて
 美しいまちをつくりましょう。
 - 一、ありがとう、いつも笑顔で親切の
 輪を広げましょう。
 - 一、活気と希望と夢にみちた、若い力
 を育てましょう。
 - 一、スポーツに親しみ、心身を鍛え、
 健康なまちをつくりましょう。
 - 一、豊かな知識と教養を高め、文化の
 向上に努めましょう。

施政方針

- 幸田町のより一層の発展を目指す出
 発の年に 2 P ~ 3 P
- 60年度予算のあらまし 4 P ~ 5 P
- 農工商の調和のとれた活力に満ちた
 まちづくりを
- 7つの重点施策 6 P ~ 8 P
- 1.新しい計画的なまちづくり~7.広
 域行政の推進



議会で施政方針を示す磯部町長

人間と自然と産業の調和

豊かで活力ある

住みよいふるさと幸田の

建設を目指して

「幸田町のより一層の

発展を目指す出発の年」

三月定例町議会において、昭和六十年年度の施政方針が、磯部町長から示されました。

この中で、「人間と自然と産業の調和」を基本理念とした、「豊かで活力ある住みよいふるさと幸田」の建設のため、七つの重点施策を進め、来たる二十一世紀に向つての基礎づくりに努力することが述べられました。

また、予算の概要も述べられ、昭和六十年年度予算は一般会計で七十億二、八〇〇万円で、庁舎用地を含めた買戻分を差し引くと、対前年度比実質五・四八%増の緊縮予算となりました。

昭和六十年年度の施政方針と予算の概要について申し上げます。

合併三十周年を経過した本年度は、三十年間に培われた優れた町民性と町勢進展を礎に、町民の総意を更に結集し、豊かで和やかな住みよいふるさと幸田の一層の発展を目指す出発の年に致したいと決意しております。さて、昭和五十九年度においては、災害や大きな事故もなく、お陰で合併三十周年の諸行事も計画どおり行われ、また、記念

事業として役場新庁舎の建設も着工でき、保健センター、深溝、荻谷小学校体育館も完成し、さらに坂崎大草地区県営圃場整備、駅西地区を始めとする区画整理事業も四地区において着工され、幸田町のまちづくりの基盤が更に推進できましたことは、議会を始めとする町民の皆様方の御理解御協力賜と感謝申し上げます。次第であります。

昭和60年度予算編成の基本的な考え

わが国の経済は、世界景気の回復、物価の安定、技術革新の進展等を背景にして、輸出の増加傾向が続き、また、設備投資も順調に増加しており、今後における米国経済の動向などの懸案材料はみられるものの、着実に拡大を続けていると思われる。国においては、このような経済情勢のもとで、わが国経済の着実な発展と国民生活の安定、向上を図るため、引き続き財政の改革を強力に推進し、その



21世紀を担う子どもたちのために

対応力を回復することが緊要であるとしています。このため、昭和六十年年度の国の予算は、既定経費の徹底した縮減を図り、過去二年度に引き続き、一般歳出を全体として前年度同額以下にまで圧縮するなど厳しく規模を抑制して編成されています。

本県西三河地方の経済は、自動車、機械など主要産業の生産受注の好調に支えられ、総じて順調に推移しています。これらの動向は、昭和六十年年度の町税収入にも反映されてくると考えられるものの、国の財政再建を進めるなかで打ち出された国庫補助負担金の削減などの措置は、本町財政にもその影響を及ぼしており、また、歳出面においても、公債費の増加及び老人保健を始めとする義務的経費の増加も著しく、一方、土地基盤、公共施設等、社会資本の充実のための財政需要により、本町財政は引き続き厳しい環境にあります。

このため、財源の重点的かつ効率的配分に努め、社会情勢の推移に即応した各種施策の積極的な推進を図ることとし、昭和六十年年度予算を年間総合予算として編成を致しました。

今、幸田町の人口は二万七千八百五十人を超え、毎年概ね六

百人の人口が増加しております。また、今日の高度化された社会にあつて、町民は、物的な豊かさとともに心の豊かさを求めております。それゆえに、新旧の住民がより心のふれあいを高めながら、よき風習、伝統を発展させ、お互いに今日忘れがちな人間本来の助け合い、いたわり合いを日常生活に生かし、健康で明るい家庭と地域づくりを進めるため、「人間と自然と産業」即ち農工商調和のとれた活力に満ちたまちづくりを推進することを念願として昭和六十年年度予算の編成に当たりました。

新庁舎を拠点に 21世紀に向けて全力傾注

昭和六十年年度は、九月には完成する新庁舎を住民サービスの拠点として、二十一世紀を展望した「第三次総合計画」の策定の年、即ち合併三十周年を経て、一層の発展を目指す出発の年であり、昭和六十年代の幕明けの年でもあります。現在の成熟した時代は、長年の努力の蓄積を今後いかに維持し、更に発展させ、そして迫り来る高齢化社会にいかに対処するか、また、高度に発達した情報化社会への取り組み、自然環境や心の豊かさを求めていくことが、行政に課さ

れている時代であると思えます。これらの社会情勢に対応した町政を進めるため、経費の節減、合理化、行財政運営の効率化に努力しつつ、町政の当面する重点目標を明確にし、積極的にその推進を図る所存であります。

対話を深め 心のふれあう町政を

壮年期を迎えたわが幸田町は、やらなければならぬ事業が山積しており、圃場整備、区画整理等いずれも緒についたばかりという状況であります。

今後、議会の皆様と意見調整を進め、また町民との対話を深め、計画実行してまいる所存であります。心の通った温い行政府を職員とともに心掛けることにも、私を始めとして全職員の綱紀を正し、公務員としての倫理にもとるようなことのないよう自省自戒しながら、職員の英知を集め、一丸となって全力を挙げて「豊かで活力ある住みよいふるさと幸田」の建設に邁進する所存であります。どうか町民の皆様の一層の御支援御協力を心からお願い致します。

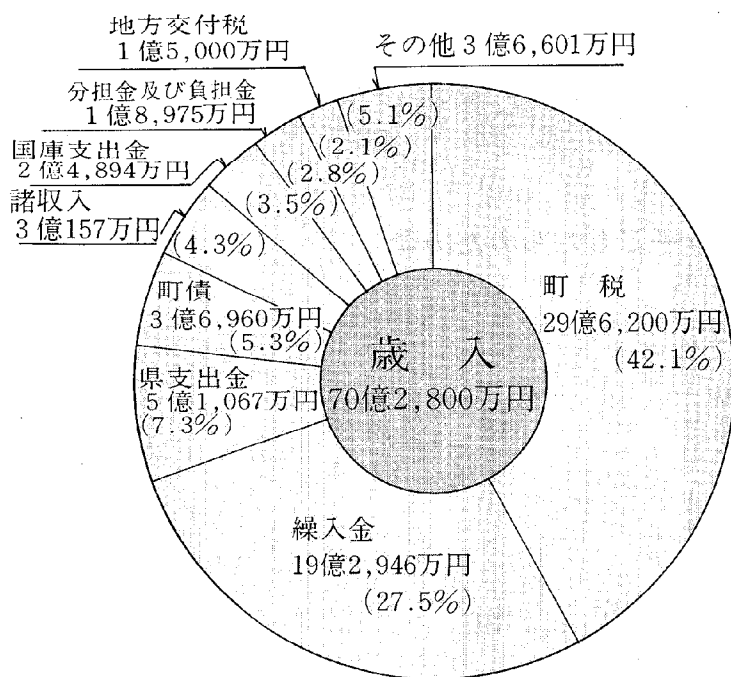
のとれた活力に くりを目指して 2,800万円

三月に開催された定例町議会において、昭和六十年の幸田町の予算が決まりました。

この予算に基づいて、幸田町は「人間と自然と産業の調和」がとれた活力に満ちたまちづくりを進めます。

ここで、この新年度予算のあらましを紹介します。

一般会計歳入



会計別予算額

会計別	本年度予算 (万円)	対前年度比率 (%)
一般会計	702,800	27.4
特別会計	土地取得会計	133,464 (1045.3)
	国民健康保険会計	76,674 (10.4)
	老人保健会計	61,212 (16.0)
	農業共済会計	9,856 (3.0)
水道事業会計	収益的	34,078 (3.6)
	資本的	43,488 (151.4)
合計	1,061,572	42.4

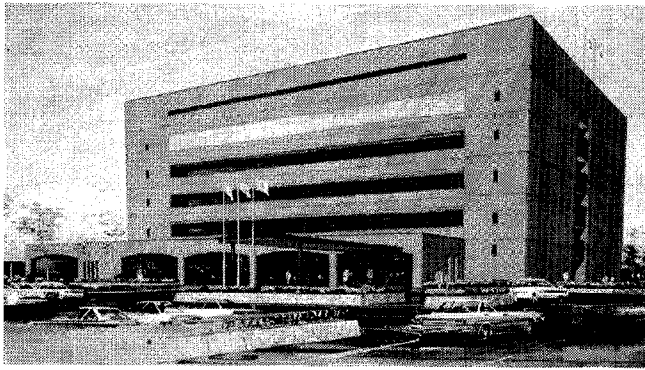
予算の概要

予算の規模は、一般会計七十億二千八百万円で前年度に比べ二七・四%の増加ですが、庁舎用地を含め十二億千六百四十一万円の買戻しを差し引きますと五十八億千五百九十九万円となり、実質五・四八%の

緊縮予算の編成となりました。また、特別会計では、土地取得特別会計十三億三千四百六十四万円ですが、庁舎等用地等の買戻し分十二億千六百四十一万円を相殺すると、実質一億八百二十三万円となり、七・五〇%の増です。国民健康保険特別会計は、医療費の

増と国の制度改正に伴い七億六千六百七十四万円の前年度比一〇・四%の増となるため、一般会計から三千万円の繰入れを計上しました。老人保健特別会計は、六億千二百二十万円（繰入金三千七十一万円）で前年度比一六%の高い伸びです。水道事業特別会計は、

七億七千五百六十六万円、十四・六%と大幅な増加ですが、これは中部工業団地関連二億五千九十万円、大草の自己水源整備六千三百七十万円等を必要とするためです。これら一般会計と特別会計と合わせ、総額では百六億千五百七十二万円です。



農工商の調和 満ちたまちづ

60年度
一般会計予算 **70億**

一般会計歳入

歳入において、町税は法人町民税や固定資産税の伸びが主因となり、二十九億六千二百万円、対前年比二十・三%増を計上し、また県支出金については四十・二%の大幅増となっています。

一方町債については、三億六千九百六十万円、三十九・四%の減とし、繰入金については、財政調整基金、庁舎建設基金、土地開発基金から合計十九億二千九百四十六万円を計上しました。

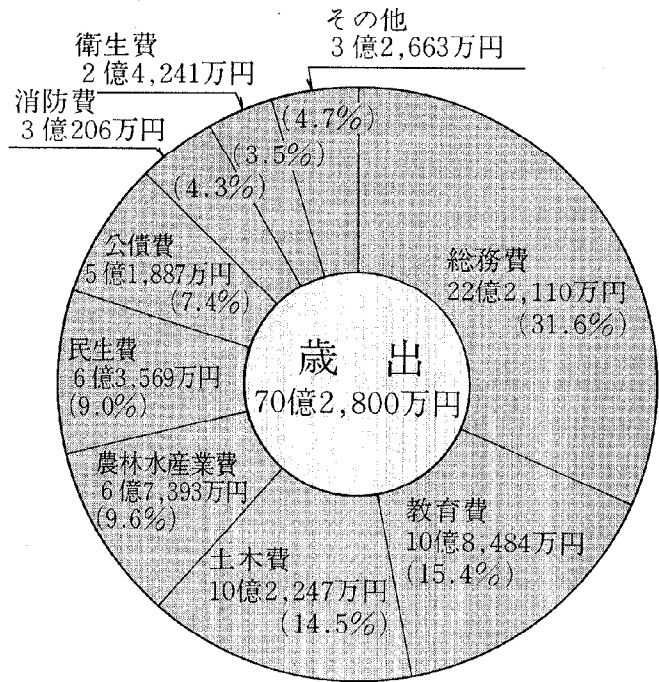
一般会計歳入

一般会計歳出

歳出について、義務的経費である人件費、扶助費、公債費は十八億百三十二万円、対前年比九・〇%の増、投資的経費である普通建設事業費、災害復旧事業費は三十八億三千七百九十五万円、庁舎用地等の会計間の買戻しなどもあるため、対前年比四十七・七%の大幅な増となりました。

一般会計歳出

一般会計歳出



性質別歳出内訳

区分	本年度額 (万円)	構成比 (%)	対前年度比率 (%)	区分	本年度額 (万円)	構成比 (%)	対前年度比率 (%)
人件費	117,703	16.7	9.6	積立金	600	0.1	△ 47.8
物件費	51,939	7.4	0.7	公債費	51,887	7.4	12.0
維持補修費	7,379	1.1	20.6	繰出金	14,906	2.1	10.6
扶助費	10,542	1.5	△ 8.7	普通建設事業	383,494	54.6	48.2
補助費等	56,115	8.0	17.6	災害復旧費	300	0.0	△ 71.8
投資及び出資	34	0.0	—	予備費	2,000	0.3	0.0
貸付金	5,901	0.8	34.1	歳出合計	702,800	100.0	27.4

重点施策

2. 人間性豊かな 住みよいまちづくり

- 教育施設整備
- 社会教育活動、コミュニティの推進
- 都市公園の整備



教育施設の整備については、幸田中学校プール建設、坂崎、豊坂小学校校体育館を改築をし、次の世代が安全で快適な環境のもとで勉学と体力の向上と併せて、学区民のスポーツによる体力づくりと、集会コミュニティの場としての活用を期待するものであります。また、本年は蒲田市幸田町衛生組合の負担を併せ建設する海谷公民館と、里折谷、野場北部集会場等の建設を予定しております。更に、教育施設整備基本計画に基づく仮称北部中学校の位置を本年中に決定し、所要の手続きの準備を進めたいと考えております。希

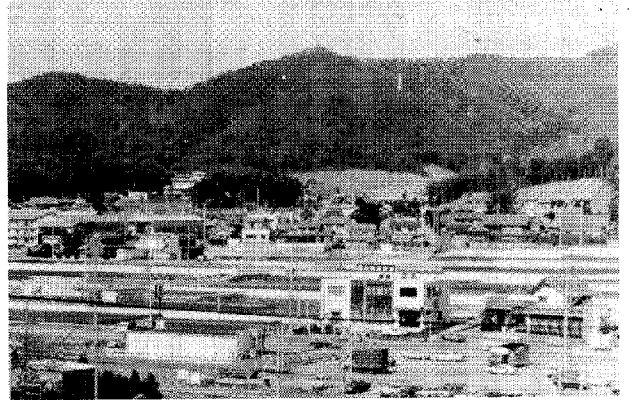
望の塔を擁する幸田公園においては、住民の健康と文化、研修ふれあいの場として一層の利用を期待し、他の公園、住民広場等と合わせ、憩いの場とコミュニティの拠点として、十分な活用を望むものであります。特に最近においては、各地区の公民館等において工夫し、個性ある諸活動が活発に行われるようになりました。これらの自主活動の醸成一層推進するため施設に図書を配本する予算も計上しました。本年は、千三百名を擁する幸田文化協会も十周年を迎えます。文化的なまちづくり一層の発展を熱望し、記念事

主な事業予算

- 幸田中学校プール建設 六、〇二八万円
- 坂崎、豊坂小学校校体育館建設 三億四、一三五万円
- 里折谷、野場北部集会場建設 八、三一〇万円

1. 新しい計画的な まちづくり

- 総合計画策定
- 区画整理推進
- 街路、下水路の整備



昭和五十二年三月に現総合計画を改めて八年が経過しておりますので、幸田町のあるべき姿を具体的に浮き彫りにして、新しい計画的なまちづくりを推進していくため、町民の願望を意志として二十一世紀を展望した「第三次総合計画」を策定してまいりたいと思っております。また、都市計画の実現のためには、適正な制限と、土地利用の合理性、加えて社会ニーズに対応した都市施設を効率的に運用することが重要です。土地区画整理事業としても里前地区がほぼ終わり、三ヶ根南、幸田駅西の

三地区に続き、芦谷仲田地区も組合設立となり、幸田駅前も推進体制が着々と整い、都市基盤の整備は進んでいます。これら都市としての抜本的整備のために組合区画整理事業助成金などを計上し、さらに機能的な都市交通のために、街路、区画路の整備、一般道路、下水路整備を積極的に推進し、計画的な行政の象徴ともいえる都市計画事業に根気強く取り組んで、住みよい新しいまちづくりを進めていきたいと思っております。

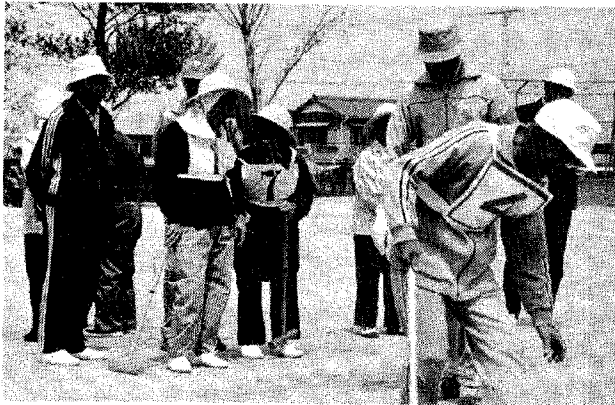
主な事業予算

- 土地区画整理事業助成金他 六、一六〇万円
- 広野山添線、幸田荻線他市街化区域内生活道路整備 一億九二六万円
- 一般町道整備 五億三、〇五〇万円
- 下水路整備 八、一三四万円

7つの

4. 心の通った 福祉行政の推進

●老人福祉、母子福祉、障害者福祉、児童福祉の充実



世界第一位の平均寿命となつたわが国において、本町も一層の高齢化社会となることは余儀なくされています。恵まれた現在が存在するのは、町の発展のため努力を積み重ねてこられた先輩たちのおかげであり、感謝の意を含め、引き続き社会に貢献していただくため老人福祉センターを中心とした健康管理、陶芸、演芸等を推進します。また、高齢者能力活用推進事業の一層の充実を図り、身障者の扶助、授産所を拠点とする活動の推進のための諸施策、母子、寡婦の方々のための施策等をきめ

細かに盛り込み、谷間のない社会福祉を行います。一方、児童福祉については、乳児保育、延長保育についても、四年前から実施しており、更に保育行政の充実に努力していきますが、保育料については、国の基準、近隣団体との均衡を考慮し、二人以上同居者の半額徴収措置を引き続き全階層に適用し、また、低所得者階層と高所得者階層とのバランス等十分検討を加えた結果、平均で五・〇％増の負担をお願いすること致しました。二十一世紀を担う子ども達の育成のため、子ども会の活

主な事業予算

老人福祉対策 六、六二九万円
身体障害者福祉、母子福祉対策 一億四、四一四万円
子ども会活動の推進 一五四万円

住民、ちびっ子広場整備を含めた児童福祉 四億二、一二二万円

3. 健やかなまちづくり

●スポーツ振興 ●予防医療の充実



高齢者の人々が健康で生きがいのある生活をされるためのゲートボール場の整備、施設の実と併せ、生きがい農園や薬草の栽培等の奨励にも力を入れていきたいと思ひます。コミュニティ活動の充実とともに、スポーツ人口は着実に増大し、家庭から地域へとその輪が広がっています。本年度中には、町民プールの設計をする考えであり、総合体育館も早く計画したいと思ひております。また、住民広場一か所と財政が許せば町民運動場を一カ所造成したいと思ひております。町の主催する町民運動会、新春マラソン大会、親

子で参加できる歩け歩け運動、各種スポーツ大会、スポーツ教室等を更に盛り上げ、一層健康な身体と精神づくりの行政を推進したいと考えております。次に健康づくりの推進については、本年から開館する保健センターを、町民の健康指導、予防等の軸とし、老人保健事業、成人病検診、ガン検診の一層の充実を図り、福祉行政と社会教育、社会体育等総合的な施策を講じ、町民の健康づくりに全力を挙げたいと思ひております。環境衛生、公害対策、また、蒲田市幸田町衛生組合の清幸園の改築も含め、その他快適な生

主な事業予算

予防医療対策 三、四六一万円
救急医療対策 二二七万円
母子健康管理診断 六二二万円
国民健康保険会計への財政援助 三、〇〇〇万円

老人保険会計への財政援助 三、〇七一万円
し尿処理場清幸園の改築 七、三五六万円
環境衛生公害対策 八五七万円

動を促進し、住民広場、ちびっ子広場の整備等も積極的に行います。社会、老人、児童福祉とも、心の通った福祉行政を旨ざしたいと考えております。

7つの重点施策

6. 豊かで活力あるまちづくり

- 農業基盤整備
- 産業振興
- 企業団地整備

本町の立地条件から農業の使命は、今後非常に公益的かつ重要なものとなります。時代に対応した生産性をあげ、所得の安定、生きがいのある農業のためには土地の基盤整備は欠かすことができません。そのため、本年度事業として、県営圃場整備事業坂崎大草地区百六十haを始め、六工区で圃場の整備を実施します。また、農地造成として矢作南部七十八ha、農道整備としては、継続の須六、長嶺に新たに、幸田南部農道を加え、その他農村集落排水工事の着手。環境改善センターの実施設計を

行い、農村地域における環境基盤の整備を進めてまいります。一方、農業情勢は極めて厳しいものがありますが、本年はまず昭和六十産米政府売渡し限度数量二万八千七百二十八俵の確保に全力を挙げることに、農地の利用率と生産意欲の向上に努めるものであります。また、幸田町の主要品目である筆柿等の果樹、いちご、なすの栽培面積の拡大、生産の振興にも努め、特に新農業構造改善事業による近代化施設整備(第二ナスハウ(ス団地))を始め、地域農政推進事業、水田利用再編対策事業な

を推進します。また、主要新規事業として、新農構の新規地区(幸田北部)の計画樹立、野菜産地総合整備、農業後継者育成対策などに意を注ぎました。工業におきましては、中小企業の団地造成についても努力を致す考えであります。また、本年から勤労者住宅資金の貸付限度額を大幅に増額するとともに、制度の改善を図りました。商業振興につきましては、駅前商店街の再開発に積極的に取り組み、また、町内購買運動を推進し、商店街の活性化を図つ

主な事業予算

- 土地基盤整備事業(六工区) 一億八、四〇〇万円
- 農地造成事業(矢作南部) 一億五、〇〇〇万円
- 農道整備事業(須六、幸田南部他) 一億三、八七〇万円
- 農村集落排水工事 一億二、〇〇〇万円
- 農業振興費 一億三、二六五万円
- 商工観光費 六、七一九万円

5. 緑を大切に安全で災害に強いまちづくり

- 緑化推進
- 交通安全対策
- 環境整備
- 消防施設整備

既定の本町の総合計画の基調は、「人間と自然と産業の調和」であります。人間と自然との調和は古今揺るぎない願望であり、今後とも開発が進む中においても堅持していかなければなりません。このため、生活環境の整備に努力するものであります。また、通学路は上六栗一号线を主体として整備します。さらに治水事業を推進し、広田川を始めとする県管理河川の改修は、強力に県に働きかけ、災害に強いまちづくりを進めたいと思っております。

農林水産業関係では、湛水防除事業などを進め、防災面について更に継続してまいります。なお、災害、火災から町民の生命と財産を守るため、消防力の充実と地域防災組織の一層の整備を推進するため、防災無線の整備を始めとして、防火水槽五基、消火栓五基等の整備を図っていくものであります。一方、交通安全対策、防犯活動として、コミュニティー活動、社会教育活動、児童福祉事業、道路等の施設整備とは別に予算を計上し、町民一丸となって事故や犯罪のないまちづくりに真剣に取り組んでいきたいと思っております。

主な事業予算

- 緑化推進事業 三五〇万円
- 造林事業 五五〇万円
- 通学路整備事業 一、八九〇万円
- 山添川・舟山川改修工事 二、三〇〇万円
- 治水事業 三、一〇五万円
- 湛水防除事業 一、三〇〇万円
- 老朽ため池整備事業(三地区) 一、八〇〇万円
- 緊急農地防災事業(三地区) 六、二〇〇万円
- 防災無線整備事業 一億一、〇〇〇万円
- 交通安全対策・防犯活動 九五五万円

7 広域行政の推進

自治体の使命は、文字どおり「自治」であります。それぞれの一市一町では解決できない大きな問題、事業があります。特に、広田川の改修、治水対象、国営矢作川総合農業水利事業、矢作川流域公共下水道、衣浦蒲郡線、名豊道路などがあります。これらは関係する市町ともども信頼関係と相互調整を重ねて強力に推進していきたいと考えております。また懸案であった錦田ガードの改良の早期完工、二四八号線についても、関係者、議会と一体となって、根気よく整備促進に邁進する所存であります。